

もくじ

1. みにくいアヒルの子 2
2. なまりのへいたい22
3. 赤いくつ46
4. はだかの王様70
5. 雪の女王88
6. おやゆびひめ 114

みにくいアヒルの子^こ

原作： アンデルセン童話

イラスト： かつなが みつとし

編集： YellowBirdProject

ある、^{なつ あつ ひ}夏の暑い日。

^{のうじょう いけ}農場の池のほとりにある、^{しげ なか いちわ}茂みの中で、一羽のアヒルが、
^{たまご あたた}卵を温めていました。

まもなく、^{たまご}卵が一つ、^{ひと}また一つと割れ始め、^{なか}中から^{きいろ}黄色い
^{はね}羽の、^{かわいらしい}かわいらしい^{どり}ひな鳥たちが^{かお}顔をのぞかせました。

「まあ、^こかわいい子どもたち」

^{かあ}お母さんアヒルは^め目を^{ほそ}細めて、^{どり}ひな鳥たちの^{はね}羽をくちばし
でつくろいました。

しかしよく^み見ると、^{どり}ひな鳥たちの^{なか}中に一羽だけ、^{ほか}他のひな
^{どり}鳥たちとは^{すがた}どうも^{ちが}姿の^こ違う子がいました。

^{ほか}他のひな鳥たちよりも、^{からだ}ひとまわり^{おお}体が大きく、^{はね}羽の色も
^{きいろ}黄色ではなく、^{うすよご}薄汚れた^{はいいろ}灰色をしていました。



くに だいたす おうさま
むかしある国に、おしゃれが大好きな王様がいました。

せかいじゅう ふく と よ まいにちなんど
世界中からめずらしい服を取り寄せて、毎日何度も
ふく きが しろ けらい へいし み
服を着替えては、お城の家来や兵士たちに見せびらかして
いました。

ひ おうさま もと した や なの ひとり
ある日、そんな王様の元に、仕立て屋を名乗る一人の
おとこ
男がやってきました。

じつ おとこ もの し
実はこの男は、おたずね者のサギ師でした。



ツバメは親指姫おやゆびひめを乗せたのまなんにちまともつづ飛び続け、やがて
南みなみの国くにへたどり着つきました。

そこは一面いちめん、きれいな花はなが咲さいていて、小鳥ことりやチョウチョ
が飛び回まわっている、暖あたたかい場所ばしょでした。

ツバメは大きな赤い花あかの上うへに、親指姫おやゆびひめを降おろしました。
その花はなの上うへには、親指姫おやゆびひめと同じおなくらいちい小さな男おとこの子こ
いました。

「王子様おうじさま。親指姫おやゆびひめをお連れつしました」

ツバメが男おとこの子こに頭あたまを下げさました。
なんとこの男おとこの子こは、花はなの妖精ようせいで、この南みなみの国くにの王子おうじ
だったのです。ツバメはこの王子おうじの命令めいれいで、親指姫おやゆびひめをここ
まで連つれてきたのです。

王子おうじは、親指姫おやゆびひめを笑顔えがおで迎むかえました。

